

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

早期水稻地帯における斑点米カメムシ類の発生状況（技術情報第6号）について  
（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

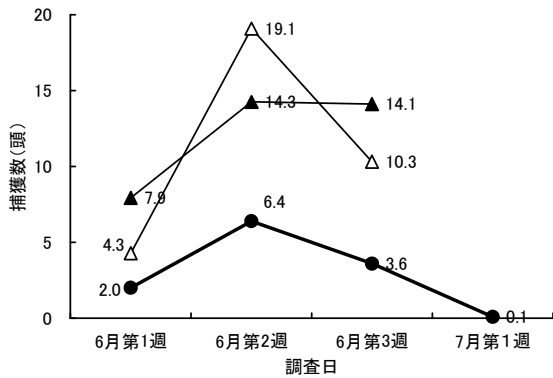
1 斑点米カメムシ類の発生状況

- (1) 2011年6月及び7月に上天草市松島町ですくい取り調査（植生：イタリアンライグラス及びイネ科雑草）を行なった。
- (2) 6月のすくい取り調査では、20回振り捕獲成虫数の3週平均は、クモヘリカメムシ4.0頭（平年11.0頭）、ホソハリカメムシ1.3頭（平年3.2頭）、アカスジカスミカメ4.4頭（平年20.1頭）と平年より少なく、シラホシカメムシ及びミナミアオカメムシは平年並みであった。
- (3) 出穂直前の7月上旬に実施した追加調査におけるクモヘリカメムシの20回振りすくい取り捕獲成虫数は、0.1頭と低密度であった。ただし、幼虫の発生が同3.2頭と認められたこと、第1世代成虫羽化開始時期が7月9日と予想される。
- (4) 追加調査におけるアカスジカスミカメの20回振りすくい取り捕獲成虫数は59.4頭と6月第3週の4.8頭に比べて増加したが、6月第3週の平均値（51.0頭）と差はなく、平年並みの発生と考えられる

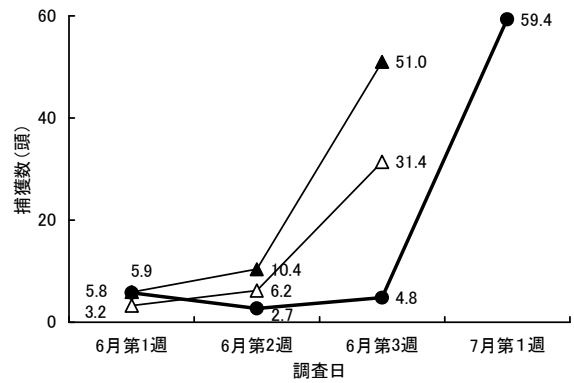
2 防除対策

- (1) クモヘリカメムシでは穂揃い期の密度が1～2頭/100㎡を超えると斑点米率が0.1%以上となるなど、斑点米カメムシ類の加害は低密度でも品質に影響を与えるので、出穂期から成虫の発生に注意する。
- (2) アメダス地点（松島）での有効積算温度シュミレーションによるクモヘリカメムシの第1世代羽化期は、7月9日と予想されていることから、水田への侵入には注意が必要である。。
- (3) 防除適期は、穂揃い期とその7～10日後（乳熟期）の2回である。
- (4) 斑点米の産出能力はクモヘリカメムシやミナミアオカメムシ等の大型のカメムシ類が高い。
- (5) カメムシ類は広範囲に移動するため、広域で一斉防除を行うと効果が高い。
- (6) 水稻出穂後における周辺雑草の除草は、本田への飛来を助長するため行わない。
- (7) 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守し、ミツバチを含め周辺環境等へ飛散のないよう注意する。特に養蜂家へ事前に防除時期等の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

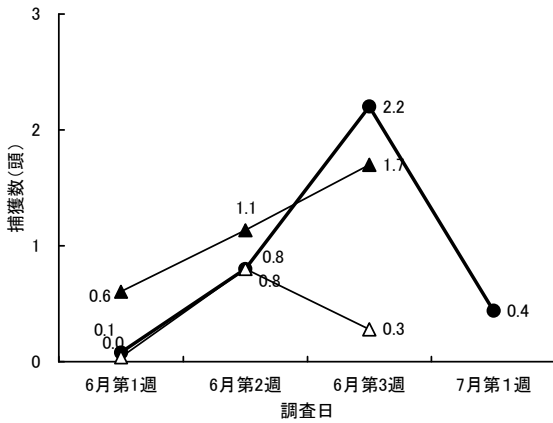
クモリカメシ



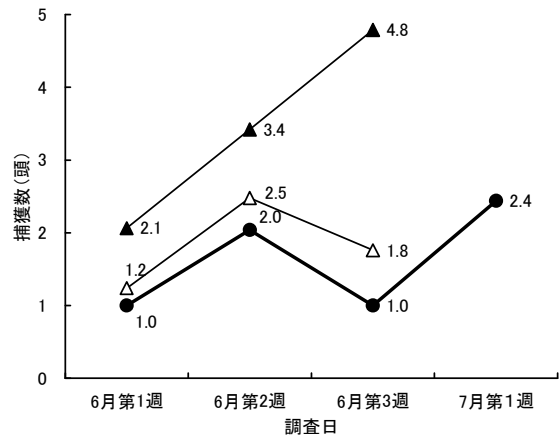
アカシカスミカメ



シロシカメシ



ホソハラカメシ



ミナミアオカメシ

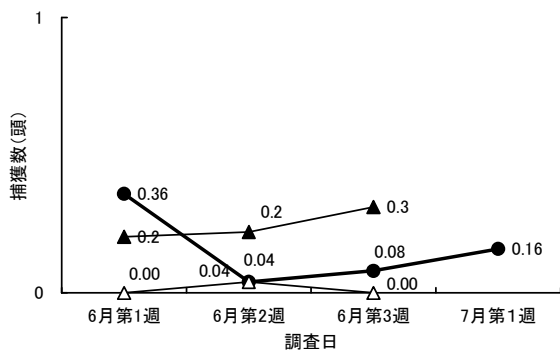


図 すくい取り調査でのカメシ類成虫捕獲数

調査場所: 上天草市  
 調査対象: イタリアンライグラスおよびイネ科雑草  
 調査方法: 20回振り平均

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所

(生産環境研究所)

山口、東

TEL: 096-248-6490

FAX: 096-248-6493